

# I 調査結果概要

## 県内中小企業の経営状況

県内中小企業の景況感は、持ち直しの動きがみられる。  
先行きについては慎重さがみられる。

- 経営者の景況感D Iは、▲45.0と、前期比で5.3ポイント増加し、2期ぶりに改善した。  
業種別では、製造業は3期連続改善し、非製造業は2期ぶりに改善した。
- 景況感の先行きD Iは▲23.3と、前回調査から横ばいだった。
- 売上げD I、資金繰りD I及び採算D Iは2期ぶりに改善した。
- 設備投資の実施率は20.8%で、3期連続増加した。
- 来期については、売上げD I、資金繰りD I及び採算D Iは当期D Iより悪化する見通しである。  
また、設備投資の実施率については当期実施率より減少する見通しとなっている。

注1) 数値については、小数点第2位を四捨五入して表記しているため、D Iを算出すると±0.1ポイントの範囲で差異が生じることがある。

注2) 「前期」：令和4年7～9月期、「当期」：令和4年10～12月期、「来期(先行き)」：令和5年1～3月期

### 1 経営者の景況感と来期の見通しについて

自社業界の景況感D Iは▲45.0となり、2期ぶりに改善した。前期比で5.3ポイント増加し、前年同期比では1.6ポイント増加した。

業種別にみると、製造業(▲44.7)は3期連続改善し、非製造業(▲45.1)は2期ぶりに改善した。

#### <景況感D Iの推移>

	当 期 (R4. 10-12)	前 期 (R4. 7-9)	前年同期 (R3. 10-12)
全 体	▲45.0	▲50.2	▲46.6
製 造 業	▲44.7	▲48.9	▲42.8
非製造業	▲45.1	▲51.2	▲49.4

先行きについては、「良い方向に向かう」とみる企業は6.7%（前回調査(R4. 7-9月)比▲0.3）、「悪い方向に向かう」とみる企業は30.0%（前回調査比▲0.3）だった。

先行きD Iは▲23.3（前回調査比±0.0）と、横ばいだった。

#### <来期の見通し>

	良い方向に向かう	悪い方向に向かう	先行きD I (R5. 1-3)
全 体	6.7%	30.0%	▲23.3
製 造 業	6.1%	29.6%	▲23.5
非製造業	7.1%	30.3%	▲23.2

## 2 売上げについて

売上げD Iは▲8.5（前期比+20.7）となり、2期ぶりに改善した。来期は悪化する見通し。

業種別にみると、製造業、非製造業ともに2期ぶりに改善した。

来期については、製造業、非製造業ともに当期の売上げD Iより悪化する見通しである。

### 〈売上げD Iの推移〉

	当 期 (R4. 10-12)	前 期 (R4. 7-9)	前年同期 (R3. 10-12)	来期見通し (R5. 1-3)
全 体	▲8.5	▲29.1	▲12.9	▲23.4
製 造 業	▲4.6	▲25.2	▲2.0	▲21.9
非製造業	▲11.5	▲32.1	▲21.2	▲24.7

## 3 資金繰りについて

資金繰りD Iは▲20.8（前期比+7.3）となり、2期ぶりに改善した。来期は悪化する見通し。

業種別にみると、製造業、非製造業ともに2期ぶりに改善した。

来期については、製造業、非製造業ともに当期の資金繰りD Iより悪化する見通しである。

### 〈資金繰りD Iの推移〉

	当 期 (R4. 10-12)	前 期 (R4. 7-9)	前年同期 (R3. 10-12)	来期見通し (R5. 1-3)
全 体	▲20.8	▲28.1	▲18.4	▲26.2
製 造 業	▲20.3	▲29.2	▲15.1	▲25.4
非製造業	▲21.2	▲27.2	▲20.8	▲26.8

## 4 採算について

採算D Iは▲30.8（前期比+9.8）となり、2期ぶりに改善した。来期は悪化する見通し。

業種別にみると、製造業は4期ぶりに改善し、非製造業は2期ぶりに改善した。

来期については、製造業は当期の採算D Iより改善し、非製造業は悪化する見通しである。

### 〈採算D Iの推移〉

	当 期 (R4. 10-12)	前 期 (R4. 7-9)	前年同期 (R3. 10-12)	来期見通し (R5. 1-3)
全 体	▲30.8	▲40.6	▲25.7	▲32.1
製 造 業	▲32.5	▲41.7	▲21.7	▲32.4
非製造業	▲29.4	▲39.8	▲28.6	▲31.8

## 5 設備投資について

実施率は20.8%となり、3期連続増加した。来期は減少する見通し。

業種別にみると、製造業は3期連続増加し、非製造業は3期ぶりに減少した。

来期については、製造業、非製造業ともに当期の実施率より減少する見通しである。

### 〈設備投資の実施率〉

	当 期 (R4. 10-12)	前 期 (R4. 7-9)	前年同期 (R3. 10-12)	来期見通し (R5. 1-3)
全 体	20.8%	20.3%	22.6%	19.6%
製 造 業	25.3%	23.5%	27.2%	24.2%
非製造業	17.2%	17.9%	19.2%	15.9%

## 6 ヒアリング調査の概況（詳しくはP13以降を御覧ください）

### 【現在の景況感】

- （一般機械器具）・産業機械関連は好調だが、半導体関連の受注が落ちており、普通である。
- （輸送用機械器具）・受注は増えているが、原材料価格が上がり続けており、景況感は普通である。
- （プラスチック製品）・建築、オフィス向けの需要はピークアウトしており、景況感は普通である。
- （食料品製造）・家庭向け食料品の中で個食用の商品が伸びており、好況である。
- （百貨店）・富裕層を中心に購買意欲が強く、好況である。
- （商店街）・行動制限がなくなりイベントも開催できたが、夜の客足が戻らず景況感は普通である。
- （情報サービス業）・DXへの取組が増加する一方、IT投資の先送りや縮小がみられ、景況感は普通である。
- （建設業）・公共工事、民間工事ともに安定しており、景況感は普通である。

### 【売上げ・採算】

- （電気機械器具）・5G関連の受注が落ち込み、売上高は前年同期比で減少した。
- （プラスチック製品）・仕事量は変わらないが、価格転嫁により全体の売上高は増えた。
- （食料品製造）・価格転嫁や新規取引により売上高は増えた。
- （印刷業）・売上高は増加しているが、原材料価格高騰の影響で採算性は悪くなった。
- （スーパー）・賃金の上昇、電気代高騰の影響で採算性は悪くなった。
- （旅行業）・学校関係の校外学習や部活動の再開に伴い、売上高は増加した。

### 【今後の見通し】

- （一般機械器具）・シリコンサイクルで半導体の受注が落ちており、半導体関連は悪い方向に向かう。
- （輸送用機械器具）・メーカーの来年度計画は増産見込みだが、都度変わるため、どちらともいえない。
- （食料品製造）・個人消費は戻ってきており、感染症が収束すれば良い方向に向かうとみている。
- （銑鉄铸件）・自動車の生産調整が長引いており、どちらともいえない。
- （商店街）・人の流れがコロナ禍前と異なっており、どちらともいえない。
- （情報サービス業）・社会全体の景気次第であるが、IT投資需要により良い方向に向かうとみている。
- （建設業）・資材価格高騰が続いており、どちらともいえない。